

日本脳炎予防接種のお知らせ

日本脳炎の予防接種は、国の方針により平成17年から平成21年度まで、積極的勧奨を差し控えていました。その後、新たなワクチンが開発され、現在は日本脳炎の予防接種を通常通り受けられるようになっていますが、平成7年4月2日生まれ～平成21年10月1日生まれの方は、日本脳炎の予防接種が不十分になっていることがあります。以下の注意事項をご確認の上、不足する日本脳炎の予防接種をお受けください。



- (1) 接種時期 通年（1年中、接種することができます）
- (2) 接種回数 【第1期初回2回（1回目・2回目）、第1期追加1回（3回目）、2期（4回目）】
母子健康手帳を確認し、日本脳炎の接種が不足している場合、不足分を接種しましょう。接種間隔は右の表をご確認の上、主治医にご相談下さい。
- (3) 接種場所 裏面記載の指定医療機関にて個別接種（電話予約が必要）。
- (4) 接種料金 自己負担無料（費用の7,203円は八代市が負担いたします。）
- (5) 持参品 **母子健康手帳（または予防接種手帳）、予診票（薄紫色）**
※予診票（薄紫色）は、各医療機関と保健センターに置いてあります。
注）母子健康手帳（予防接種手帳）が無い方は、予防接種を受けることができません。手帳を紛失された方は、接種に行かれる前に、必ず保健センターで手帳の再交付を、受けてください。
- (6) 注意事項 予診票は必ず保護者が記入してください。なお、個別接種は保護者（親権者）同伴でないと受けられません。ただし、やむを得ない理由で保護者が同伴できない場合は、予約時、医療機関にその旨を伝え、**委任状**と予診票を一緒に医療機関に提出してください。また、委任される方は、対象者の健康状態をよく把握された方をお願いします。
※委任状には、次の内容を記載してください。（①接種日②委任する相手の名前、続柄③日本脳炎予防接種に関する一切の事項を委任します。④保護者の氏名、印）

《日本脳炎》とは・・・？

日本脳炎は人から人へ直接感染するのではなく、感染した豚の体内で増えたウイルスを蚊（コガタアカイエカ）が媒体して感染します。7～10日間の潜伏期間の後、高熱・頭痛・嘔吐・意識障害などの症状を起こす急性脳炎になることがあります。夏かぜに似た症状や無菌性髄膜炎で終わる人もいます。脳炎にかかったときの死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人が多くいます。

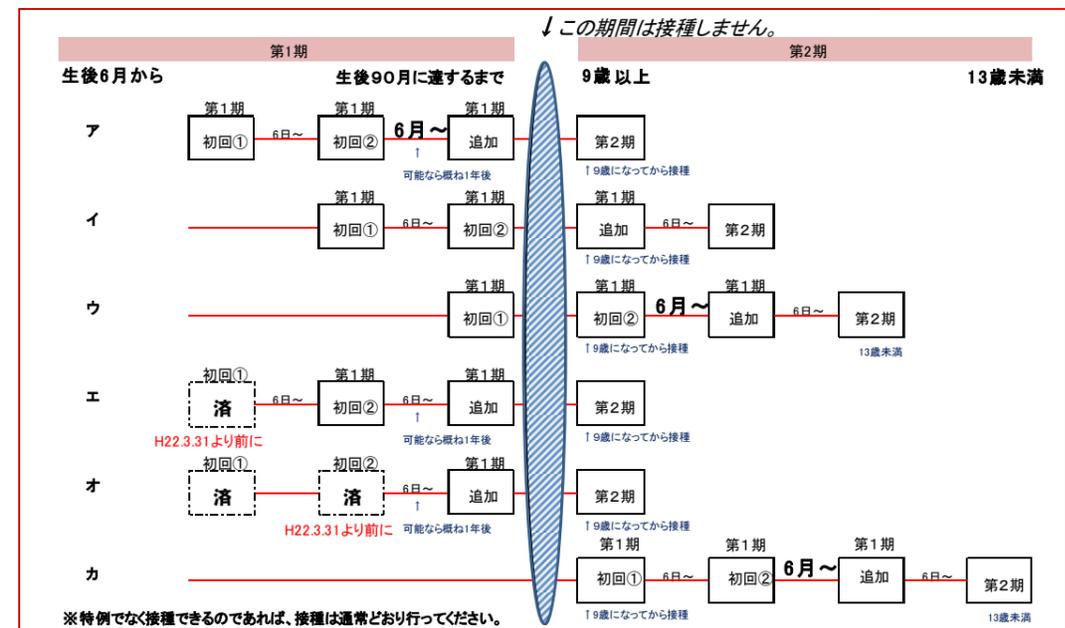
《日本脳炎》ワクチンの副反応は・・・？

○まれに接種直後から翌日に、発疹・じんましん・かゆみなどがみられることがあります。○全身症状としては37.5度以上の発熱・咳・鼻水・悪寒（さむけ）・頭痛・倦怠感・吐き気など、局所症状としては接種部位に発赤・腫れ・痛みなどがみられることがありますが、通常は2～3日で消えます。○ごくまれに接種数日後数日～2週間程度で急性散在性脳炎（ADEM）などの重い副反応がみられる場合があるといわれています。

予防接種の間隔

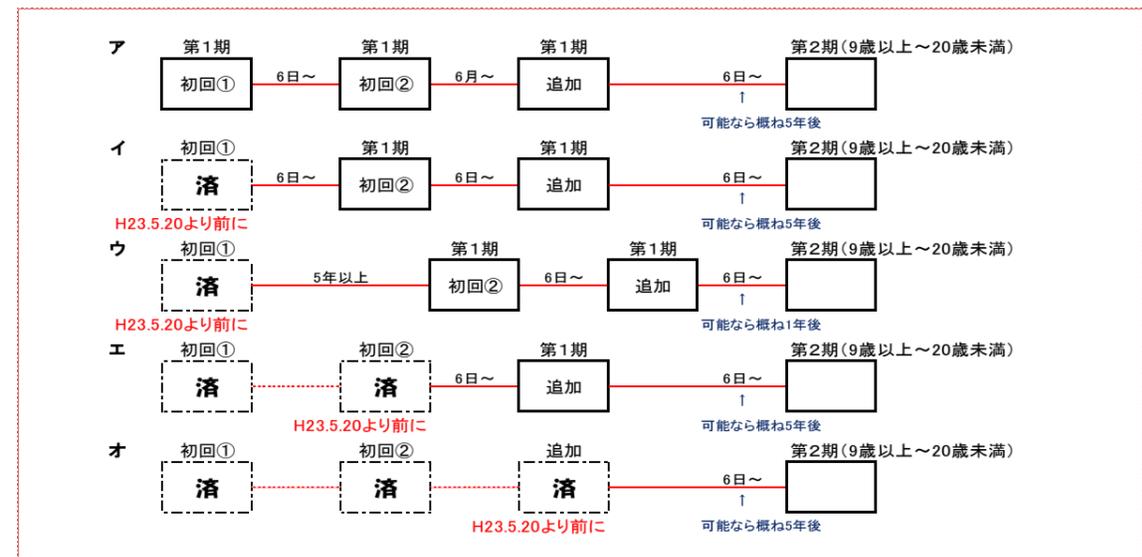
A 平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれで第1期・第2期の年齢にあるもの（省令附則第4条）

第2期年齢（9歳以上13歳未満）でも第1期の不足分の接種ができます。
※7歳6か月～9歳までの方は定期接種の対象にはなりません



B 平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれで、20歳未満の者（省令附則第5条）

7歳6か月～9歳までの方も第1期の接種ができますが、
第2期の接種は9歳以上です（20歳未満）
1期初回から1期追加までの間隔は初回の接種暦によって異なります。



※ 他のワクチンからの間隔

生ワクチン（BCG、麻しん風しん等）接種後は27日（4週間）以上あける
不活化ワクチン（二種混合、インフルエンザ等）接種後は6日（1週間）以上あける

